

第6章 問題6-1

【問1】④：2,000

〈資料4〉商品600 + 原材料100 + 製品1,000 + 貯蔵品50 + 仕掛品250 = 棚卸資産2,000

* 棚卸資産は以下のものから構成される。

① 商品 ② 製品 ③ 仕掛品 ④ 貯蔵品 ⑤ 原材料

【問2】⑤：3,000

流動資産4,200 - 正味運転資本1,200 〈資料4〉 = 流動負債3,000

* 正味運転資本 = 流動資産 - 流動負債

【問3】②：1,100

〈資料1〉

	A社
株主資本	
資本金	1,500
資本剰余金	500
利益剰余金	1,100 ← 差額
自己株式	△100 ← 〈資料4〉
株主資本合計	3,000

【問4】③：16,000

売上原価12,800 ÷ 売上高売上原価率80% 〈資料4〉 = 売上高16,000

【問5】③：△600

フリー・キャッシュ・フロー500 〈資料4〉 - 営業活動によるキャッシュ・フロー1,100
= 投資活動によるキャッシュ・フロー△600

* フリー・キャッシュ・フロー

= 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

【問6】①：(ア) 70 (イ) 良い

ア) B社の売上高売上原価率70% = 売上原価6,825 / 売上高9,750 × 100

イ) 売上高売上原価率はB社 (70%) の方がA社 (80% 〈資料4〉) よりも低く、B社の方が良いといえる。

* 売上原価率や販売費及び一般管理費率のような費用項目は、「低い」方が良いといえる点に注意。

【問7】③：1,452

2年後のA社の当期純利益1,452 = 当年度のA社の当期純利益1,200 × 110% × 110%

【問8】②：(ア)正 (イ)誤

ア) 当座資産はA社 (2,200)の方がB社 (1,600)よりも多い。

* A社の当座資産2,200 = 流動資産4,200 - 棚卸資産2,000 (問1参照)

* B社の当座資産1,600 = 流動資産2,800 - 棚卸資産1,200

イ) 当座比率はA社 (73.3%)の方がB社 (64.0%)よりも高く、当座比率からみた短期的な安全性はA社の方が高い。

* A社の当座比率73.3% = 当座資産2,200 / 流動負債3,000 (問2参照) × 100

* B社の当座比率64.0% = 当座資産1,600 / 流動負債2,500 × 100

【問9】③：(ア)誤り (イ)正

ア) B社のフリー・キャッシュ・フロー400

= 営業活動によるキャッシュ・フロー1,000 + 投資活動によるキャッシュ・フロー△600

イ) フリー・キャッシュ・フローはA社 (500 <資料4>)、B社 (400)ともにプラスの値であるため、両社とも営業活動によるキャッシュ・フローの範囲で投資活動によるキャッシュ・フローがまかなわれている。

【問10】④：(ア)誤 (イ)誤

ア) 総資本経常利益率はA社 (25.3%)よりもB社 (29.9%)の方が高く、投資の効率はB社の方が高いといえる。

* A社の総資本経常利益率25.3% = 経常利益2,020 / 負債純資産合計8,000 × 100

* B社の総資本経常利益率29.9% = 経常利益1,945 / 負債純資産合計6,500 × 100

* 総資本 = 負債純資産合計

イ) 自己資本当期純利益率はA社 (40.0%)よりもB社 (48.8%)の方が高く、株主の投資に対する収益性はB社の方が高いといえる。

* A社の自己資本当期純利益率40.0% = 当期純利益1,200 / 純資産合計3,000 × 100

* B社の自己資本当期純利益率48.8% = 当期純利益1,170 / 純資産合計2,400 × 100

【問11】③：(ア)誤 (イ)正

ア) A社の総資本回転率2.0回 = 売上高16,000 (問4参照) / 負債純資産合計8,000

イ) 売上高経常利益率はA社 (12.6%)よりもB社 (19.9%)の方が高いが、総資本回転率はA社 (2.0回)の方がB社 (1.5回)よりも高いため、B社の方が総資本経常利益率が高い要因は、売上高経常利益率が高いことである。

$$\begin{array}{l} * \text{総資本経常利益率} \\ \text{(ROA)} \end{array} = \underbrace{\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}}}_{\text{売上高経常利益率}} \times \underbrace{\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}}_{\text{総資本回転率}}$$

* A社の売上高経常利益率12.6% = 経常利益2,020 / 売上高16,000 × 100

* B社の売上高経常利益率19.9% = 経常利益1,945 / 売上高9,750 × 100

* B社の総資本回転率1.5回 = 売上高9,750 / 負債純資産合計6,500

【問12】④：（ア）誤（イ）誤

ア）B社の1株当たり純資産1,200＝純資産合計2,400 / 発行済株式数2〈資料4〉

* 問題文では1,200「百万円」となっているが正しくは1,200「円」であるため本問は「誤」が正解。（純資産合計2,400百万円を発行済株式数2百万株で割るため、1株当たり純資産の単位は「円」）

イ）株価純資産倍率（PBR）はA社（8.0倍）の方がB社（2.7倍）よりも高い。

* A社のPBR8.0倍＝株価24,000〈資料4〉 / 1株当たり純資産3,000

* A社の1株当たり純資産3,000＝純資産合計3,000 / 発行済株式数1〈資料4〉

* B社のPBR2.7倍＝株価3,250〈資料4〉 / 1株当たり純資産1,200

【問13】①：（ア）高い（イ）高い

ア）従業員1人当たり売上高はA社（13.3）の方がB社（12.2）よりも高い。

* A社の従業員1人当たり売上高13.3＝売上高16,000（問4参照） / 従業員数1,200〈資料4〉

* B社の従業員1人当たり売上高12.2＝売上高9,750 / 従業員数800〈資料4〉

イ）従業員1人当たり売上高が高い方が労働効率が高いため、この指標からみた労働効率はA社の方が高い。